＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

静内ケアセンターだより４月２３日号

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊Twitterも読んでくだい。

北海道共生ケアネットワーク創立記念講演会

富山型を語る！惣万佳代子氏・・さすが～

パット見は普通の初老のおばさん。本人曰く「美人でない所がいい」普通のおばさんのやってる事が実にユニークであり、ニーズへの取り組みなのだ。役人はこんなタイプが苦手なのもよかったのだろう。周到な準備・計画性があったわけではない。看護師の熱い思いがあっただけ・・１９９３年「富山型デイサービス・このゆびとーまれ」をオープンさせたのだが、利用者ゼロからのスタート・・・当日やっと１名が来た。

後半のシンポジウムでは惣万佳代子節が出ていた。本音がポンポン出ていたし、現場での姿が浮かびあがってくる。制度に振り回されたのでなく、現場の取り組みが制度をつくってきたのだ。

３０年から介護事業者に「富山型デイサービス」が認められますので、全国各地で「共生型サービス」が展開されよう。ただし、都道府県の考え方や理解度には温度差があるので、ニーズに積極的に取り組む姿勢が不可欠。行政(保険者)が「良い制度ができたのだからやりましょう」は絶対に無い。机上の上では考えられないからだ。認知症の爺婆と障がいの子供が普通に生活する姿を連想できないからだ。しかし、現場では認知症の人が子供達を受け入れている。会話するロボットよりいいの決まってる。黙～て座らせておくより、爺婆は子供達から刺激を受け脳も活性化する。変な薬よりも認知症の進行を防ぐ！

グループホームやデイサービスも一つの社会であり、本来は年齢や疾病の有る無しで分けるのではなく共生の場であるべきである。利用したい人にとっての選択肢が広がればいいのだ。

懇親会や二次会のカラオケでも惣万さんの個性がだされていた。美智子妃殿下があの席におられたら「フローレンス・ナイチンゲール記章」の人？とひっくり返るであろう。一番弟子の阪井由佳子氏が「女を捨てた惣万」氏に寄り添う理由が解った。美人の理学療法士を捨てて逃げた男への執念かな～・・「美人が語って悪いんかい」「うつに負けとられんわ」生・育・学・勞・病・死への正しいチャレンジを語っていた。二人の話は、病院は死ぬ場所ではない。人は死に向かって生きているのであり、我々の出来ることは、最後の死への準備を邪魔しないことである静内ケアセンターの取り組みと共通性を感じた。また呑もう！